

本日、平成16年2月24日、衆議院予算委員会において、11:15より中津川博郷議員（民主党）が台湾に関する質問を行った。全文は下記の通り。なお、口頭での質疑のため、わかりにくい箇所は適宜注釈を（ ）で挿入していることをご留意いただきたい。（（筆記＝日本李登輝友の会青年部部長・早川友久）

---

中津川博郷議員（以下、中津川と略す）

「民主党の中津川でございます。実はですね、昨年12月23日、田中均外務審議官が中国外交部の李外交部長と会談した際、日本は「一つの中国」の立場を堅持して、「二つの中国」や「一台一中」に反対しました。

それを汲んでと言いますか、城之内秀久外務省中国課長（筆記者注：城之内ではなく堀之内の誤り）が台湾当局へ申し入れを出すよう、交流協会の台北事務所へ指令を出して、29日に申し入れがなされた、と台湾で報道されています。これは事実ですか？大臣」

川口順子外務大臣（以下、川口と略す）

「田中外務審議官が、そういう態度を表明したということは事実です。それから12月29日に交流協会の台北事務所長が、台湾側に対して申し入れをしたということでございますけれども、この指示を出したのは中国課長ではなく、日本政府として指示を出したということでございます。ちなみに中国課長は堀之内と申します。」

中津川

「大臣、これ閣議決定したんですか？」

川口

「これは外交の案件ということで、政府としての決定を“決裁”を通じてやっております」

中津川

「これは後でまた質問しますが、”総統府”というのは日本で言う“政府”のことですよね。大変に重いんですよ。それで先般、同僚の長島議員が質問しました。“内政干渉・選挙干渉”ではないかと。このこと自体問題になるんですが、 — 今、田中審議官の件は事実を認めましたね — なぜ、この申し入れをしたのか、その意図を簡潔にお答え下さい。」

川口

「まず、田中審議官が申し入れた立場、これは何も新しいことではなくて、わが国が台湾と中国との関係についてはずっと言ってきたことでございます。

例えば、言った内容でございますけれども、「一つの中国、一つの台湾」「2つの中国」という立場はとらない、「台湾の独立を支持しない」、わが国としては台湾を巡る問題が平和的に解決されること、そのための対話が早期に再開されることを希望している。中国の武力行使には反対である、ということを行ったわけでございます。

例えば、一語一句の文言がすっかり同じと言うわけではございませんけれども、前にさかのぼりますと 97 年に橋本総理（当時）が、中国で演説をした折に、日本は台湾独立を支持していないというようなことを言っておりまして、基本的に同じ立場を繰り返したということでございます。」

中津川

「要するに現状変更をしてはいけないということですね。確認ですが、“現状変更”とう言葉が良く使われますね。これをしない、そういう意図でこれ（12月29日の申し入れ）を出したということによろしいんですか。」

川口

「現状を変更しないということではなくて、わが国の台湾と中国に関する基本的な立場、これを述べたままであって、これは日中共同声明に従って、台湾とわが国の関係は非政府間の実務的な関係を維持していくことでございます。田中外務省審議官の先ほど申しました発言、あるいは橋本元総理の当時の発言、それらはそういった立場に則って行われているということでございます。」

中津川

「12月9日に、中国の温家宝首相が訪米した際にですね、ブッシュ大統領が“中台いずれの側であろうと、現状を変更することに繋がるいかなる一方的動きについて反対する”と、このように発言しましたね。それで、現状を変更する恐れがあるというか、そういう意味での台湾の国民投票を支持しないという意向を伝えたとされています。そこで（日本国）外務省はすぐ反応して、だからわが国もアメリカと同一歩調をとっているんだと、だからこそ29日に申し入れをしたんだと、私はそのように理解しています。

だけど、ブッシュ発言のうち、あとでライス補佐官がフォローしているんですよ。“我々は中国側に対し、もし中国が台湾に、軍事力あるいは威圧を加えようとするならば出動する”“台湾を守る”と、言っているんです。

日本・アメリカ・台湾、これは大事なラインです。（ブッシュ）大統領もこの発言の際、中国側に“武力行使などの現状変更は許さない”これも明言しているんですよ、私が調べてみたら。

(日本の発言は) アメリカに乗っかって、一方的に中国サイドに立った発言ではないかな、と懸念しております。ブッシュ大統領は、中台双方に現状維持を求めているわけですよ。だから、台湾に対してものを言うと同時に、きっちり中国に釘を刺しているわけですよ。それを何ですか外務省の態度は。中国政府に対しては何にも言わずに、台湾に対しては内政干渉・選挙干渉ともとられかねない申し入れをする。日本の外交は志が低いね〜、そうとしか思えないよ。いかがですか。」

川口

「まず、わが国のこういった申し入れ、これは米国がやったからとか、中国に頼まれたからという訳ではなくて、わが国のこの地域の平和と安定に関する考え方から主体的に行ったというのが第1点です。

それから第2点。“台湾だけに言って、中国に言っていない”、これは全く事実に反することでありまして、例えば先般、逢沢外務副大臣が中国に行かれましたけれども、そういった折にも中国に自制を求めるということをやっていただいております。」

中津川

「今、しっかり聞きましたよ。中国はですね、496基のミサイルを配備しているんですね。聞くところによると、年間50~70基のミサイルを増強していると、これは“現状変更”ではないですか。私はそう認識しますね。中国政府がいくら台湾にミサイルを向けても問題がない(ということですか?)

これはきっちり言うんですね。今、川口大臣は具体的なことは言いませんでしたけれども、逢沢大臣が“きっちり言ってきた”と言いました。どんどんミサイルを増やしていることを中国に対してもちゃんと警告するんですね、大臣。」

川口

「先ほど申しましたように、中国に対しても“武力行使は反対である”ときちんと日本は言ってきているわけでありまして。先ほど、田中外務審議官の発言を紹介いたしましたけれども、その時にもそのことは申し上げております。ですから、台湾に言うと同時に、中国にもきちんと言っているということでございます。」

中津川

「ホントかな〜と思いますね。じゃあちよつと突っ込んだ質問しますよ。

(12月29日の申し入れ文書を手に取りながら)

このペーパーですね、外務省アジア大洋州局中国課というところを出しているんですがね、すごく気になるところがある。台湾総統という表記の際に、なぜ“総統”の部分をいちい

ち「」（カギ括弧）で括弧の？このことは、これに始まったことじゃないんですよ。どうしてですか？」

川口

「これは（中津川）委員が“これに始まったことではない”とおっしゃいましたけれども、まず、わが国の台湾に対する基本的な立場というのは、日中共同声明に従って台湾との関係は非政府間の実務的な関係として取り扱っていくということでございます。台湾を国として扱ったり、その当局を政府として扱ったりすることはないわけでございます。従いまして、わが国の政府の基本的な関連文書における関連表記は、わが国の基本的な立場を踏まえてやっているということでございます。そういうわけでございますので、この立場を踏まえまして、『外交青書』など、わが国の政府の立場を正式に示す文書では、わが国が台湾を“国として扱っている”という誤解を招かないために必要に応じて「」（カギ括弧）をつけて表記をしているということでございます。」

中津川

「じゃあ大臣、北朝鮮はどうなんですか？国交がありませんよね？金正日総書記に「」（カギ括弧）をつけて表現していますか？」

（野次が飛ぶ「答えてよ！」「時間がないんだぞ！」「なんで答えられないんだ！」）

（委員長が外務大臣を促す）

川口

「仰るように、北朝鮮には「」（カギ括弧）をつけていないようでございます。それは何故かということでございますが、— 色々な考え方があるかと思いますが — わが国は、台湾については従来、国として扱っていたという経緯があるわけですし、国として扱っていたものを1972年の日中共同声明に従って“国ではありません、地域であります”ということを明確に表明したという観点で、誤解がないように「」（カギ括弧）をつけたということです。そうした事情の変化があった、ということを確認に示すために「」（カギ括弧）をつけて表しているということであろうかと思えます。」

中津川

「失礼ですねー。民主化が進んでいるんですよ。台湾の国民が選んだんじゃないですか。「」（カギ括弧）なんかつけるのは“自称総統のあなたは”ということですよ、実に失礼ですねー。この質問をするにあたって、私が調べてみたら、「」（カギ括弧）つきで台湾の関連表記をしているの

は中国しかないんですよ。おかしいですよ！おかしい！

台湾という国はわが国と同じく海洋国家なんだよ。歴史文化でも多くの共通点があって、国交こそないけれど本当に親日家ですよ。わが国の国会議員も与野党問わず、毎年数百人が台湾に行っているんですよ。そして例外なく、台湾の民主化を評価して、台湾人の親日感情に感激して帰ってくる。こういう台湾の本当に素晴らしい人たちが沢山いる。彼らがなぜそれほどまでに親日なのかというのは色々な理由があるかと思いますが、私は、彼らの原点「武士道」の精神だと思っています。

ここに、李登輝前総統の『武士道 解題』があります。私も感動して後ろに書評を書かせてもらっているんですが、やっぱり“強いものを恐れず、弱いものをいたわる”という精神が、日本人の武士道精神なんですよ。こういうものがあるから、やっぱりそれだけ日本に親しくしてくれているんじゃないんですか。

今までの一連の流れ、大臣が色々と言いましたけれども、これは武士道精神に反しますよ。

弱者に威張って、強者に媚びる、あっちばかり見ているじゃないですか。

今、「ラストサムライ」というのが流行っています。私が行きましたらね、ピアスとか髪がとんがったりしている若い今流のおねーちゃん・おにーちゃんたちがね、本当に感激して涙しているんですよ。日本もまだまだ捨てたもんじゃないなと思いますよ。

国家も日本人も、もう一度武士道精神に戻るべきだと私は思います。

大臣、もう答えなくていいですから、

“台湾のことは台湾に任せましょうよ！台湾の人が決めて、中国ともよく話し合いをして台湾人自らに決めてもらいましょうよ！”

こんな「」をつけてバカにしたようなことをして、いくら大臣が(先ほどのような)説明したところで台湾の人たちはそういうふうに思いません！

お答えにならずとも結構です。議論は後でゆっくりしたいと思います。」

---

引き続き、中津川議員は大阪歯科医師会の質疑に移ったが以上、台湾関連の質疑は約 20 分程度であった。

中津川議員は、先日の長島昭久議員（民主党）に引き続き、日本政府の台中に対する不均衡な日本の外交姿勢を浮き彫りにした。日本のため、ひいては台湾のため、大局を見据えて「何が国益」であるかを冷静に分析できる両議員の質疑によって、台湾は大きく勇気付けられることであろう。

台湾総統の“総統”部分を「」で表記した件について舌鋒鋭く質問した際、川口大臣が答弁するまでに外務省職員との打ち合わせで 1 分以上の時間をロスして、多くの野次が飛んだ。

質疑の最後に「台湾のことは台湾に任せましょうよ！」と感極まった表情で発言した中津川議員の姿が印象的であった。